

# 京都府内の地震被害想定見直し結果について

(R6 花折断層帯を除く主要な活断層による地震被害想定)

## 1 被害想定見直し結果概要

地震被害想定算出にあたっては、内閣府において、東日本大震災等の実際に発生した地震災害のほか、南海トラフ地震や日本海溝・千島海溝地震等の調査研究結果から得られた新たな知見に基づいた検討が進められているところ。

本被害想定結果は、本府に甚大な影響を及ぼす可能性のある地震について最新の内閣府の算定方法や基礎データを反映し、被害想定の見直しを行ったものである。

### <H20 被害想定結果との比較>

①建物の耐震化率向上により、人的被害・建物被害とも減少

②避難者数については、建物被害の減少に加え、近年の災害を踏まえた半壊建物からの避難率の見直しにより、大幅に減少

### <今回新たに算定した項目等>

上下水道、電気、通信等のライフラインについて、被害の状況や復旧に要する期間を新たに算定

## ■H20 被害想定結果との比較（人的被害・建物被害）

( ) 内は前回数値

断層名	人的被害（人）				建物被害（棟）			
	死者	負傷者数		要救助者	避難者	全壊	半壊	焼失
		重傷者数						
生駒断層帯	990 (3,380)	10,030 (30,350)	1,600 (3,490)	6,200 (18,490)	75,100 (367,170)	28,660 (65,230)	65,830 (123,760)	3,610 (4,960)
有馬－高槻断層帯	1,320 (2,890)	16,000 (43,910)	2,230 (5,190)	10,000 (26,760)	124,700 (340,500)	39,730 (60,480)	119,580 (223,070)	5,220 (6,440)
奈良盆地東縁断層帯	520 (1,890)	6,210 (19,700)	930 (2,000)	3,200 (10,730)	40,120 (248,540)	19,820 (46,010)	42,510 (89,530)	1,890 (4,620)
木津川断層帯	420 (1,560)	5,710 (18,430)	730 (1,680)	2,400 (9,270)	32,540 (236,460)	16,250 (40,660)	42,020 (88,950)	1,390 (3,940)
殿田－神吉－越畑断層	1,050 (3,410)	18,410 (34,930)	2,070 (3,860)	6,100 (18,960)	67,420 (426,020)	32,310 (77,560)	100,720 (155,490)	5,060 (5,610)
埴生断層	330 (1,510)	5,800 (19,970)	540 (1,700)	2,600 (9,730)	36,100 (262,330)	13,810 (38,050)	55,120 (101,920)	650 (2,260)
上林川断層	430 (1,160)	2,990 (8,290)	630 (1,330)	2,850 (5,770)	27,740 (101,490)	23,120 (39,490)	29,860 (47,600)	540 (4,970)
三峠断層	430 (1,150)	2,700 (7,920)	630 (1,330)	2,960 (5,950)	28,710 (95,730)	22,010 (38,340)	26,820 (44,650)	730 (4,890)
郷村断層帯 (H20地震被害想定) (H29地震・津波調査)	1,010 (2,180) (5,400)	4,870 (12,670) (17,970)	1,510 (2,300) (6,480)	6,100 (9,260) (6,910)	57,320 (149,400) (115,320)	62,860 (76,610) (65,400)	41,190 (60,610) (36,120)	2,010 (10,550) (18,530)
山田断層帯	540 (1,650)	3,000 (9,030)	840 (1,570)	3,590 (6,750)	34,200 (108,100)	36,930 (54,980)	31,770 (49,350)	1,120 (8,550)
花折断層帯 (参考)	4,660 (6,950)	60,830 (177,510)	9,870 (42,600)	27,400 (8,000)	239,820 (482,000)	110,710 (189,070)	147,050 (256,900)	23,500 (11,100)

※有馬－高槻断層帯の「全壊・半壊」前公表数値は、R5 花折断層帯地震被害想定結果と同様にH16 京都市地震被害想定結果に基づいた数値を、H20 他断層帯地震被害想定結果との比較のため、再算出したもの

※同断層帯の「避難者数」前公表数値については、R5 花折断層帯地震被害想定結果と同様にH16 京都市地震被害想定結果に基づき「避難所内避難者」の数値を採用

## 2 被害想定結果の詳細

### (1) 人的被害の状況

#### ■ 「死者数」「負傷者数」「重傷者数」「要救助者数」「避難者数」は全て減少

- ・死因は、揺れによる家屋倒壊（9割）、火災（1割）
- ・負傷理由は、主に揺れによる家屋倒壊のほか、火災等によるもの
- ・死者・負傷者数については、建物の耐震化率の向上による建物被害棟数の減少に伴い減少
- ・重傷者数については、負傷者数の減少に伴い減少
- ・要救助者数については、建物被害数の減少に伴い減少
- ・避難者数については、建物被害棟数の減少に加え、前回想定(H20)では全壊・半壊建物から全員が避難することとしていたが、近年の災害における半壊建物からの避難割合を反映したため、大幅に減少

### (2) 建物被害の状況

#### ■ 「全壊」「半壊」の棟数は全体的に減少

- 理由：・ 建物の更新等による耐震化率向上（H20：78%→R2：88%）
- ・ 前回想定(H20)では、新耐震基準(S56以降)を満たす建築物の被害率を一律に算出していたが、新耐震基準を満たす建築物の中でも建築年次が新しいほど被害率が低下することを反映し、被害率を3段階(S56～H元、H2～H13、H14～)に区分けして算出した結果、被害数が減少

#### ■ 地震発生後の火災による焼失棟数は全体的に減少

- 理由：・ 建物被害数の減少に加え、近年の災害における消防団による消火や延焼遮断帯（広い道路や農地等）による延焼防止効果を反映して算出した結果、すべての断層で焼失棟数が減少
- ・ ただし、建物が密集する都市部では延焼拡大等により焼失被害が増加する地域がある

### (3) ライフライン被害の状況

新たに管路や浄水場・処理場の被害に基づく上下水道の支障人口や電柱の破損による停電軒数等の被害状況に加え、復旧見込みを算出

#### ■ 被害の状況

断層名	上水道 (断水人口)	下水道 (機能支障人口)	電力 (停電軒数)	固定電話 (不通回線数)	携帯電話基地局 (エリアの最大停波率)	都市ガス (停止戸数)
生駒断層帯	88万人	9.5万人	1.2万軒	1.4万回線	8.2% (山城)	16.3万戸
有馬-高槻断層帯	120万人	11.8万人	1.8万軒	2.5万回線	8.1% (山城)	40.2万戸
奈良盆地東縁断層帯	59.7万人	7.1万人	1万軒	1.1万回線	7.1% (山城)	14.1万戸
木津川断層帯	58.8万人	6.9万人	8千軒	8.5千回線	5.4% (山城)	2.1万戸
殿田-神吉-越畑断層	94.4万人	9.5万人	1万軒	1.8万回線	7.5% (南丹)	22.9万戸
埴生断層	60.2万人	7.2万人	3.6千軒	4.6千回線	6.5% (南丹)	2.6千戸
上林川断層	17.3万人	2.8万人	3.1千軒	3.4千回線	6.8% (中丹)	8千戸
三峠断層	14.5万人	2.2万人	3.4千軒	3.8千回線	7.6% (中丹)	6千戸
郷村断層帯	26.5万人	4.4万人	8.4千軒	1.2万回線	31.8% (丹後)	2千戸
山田断層帯	13.2万人	1.5万人	5.1千軒	7.3千回線	21.9% (丹後)	0戸
花折断層帯 (参考)	130万人	15万人	7.2万軒	9万回線	20% (京都市)	71万戸

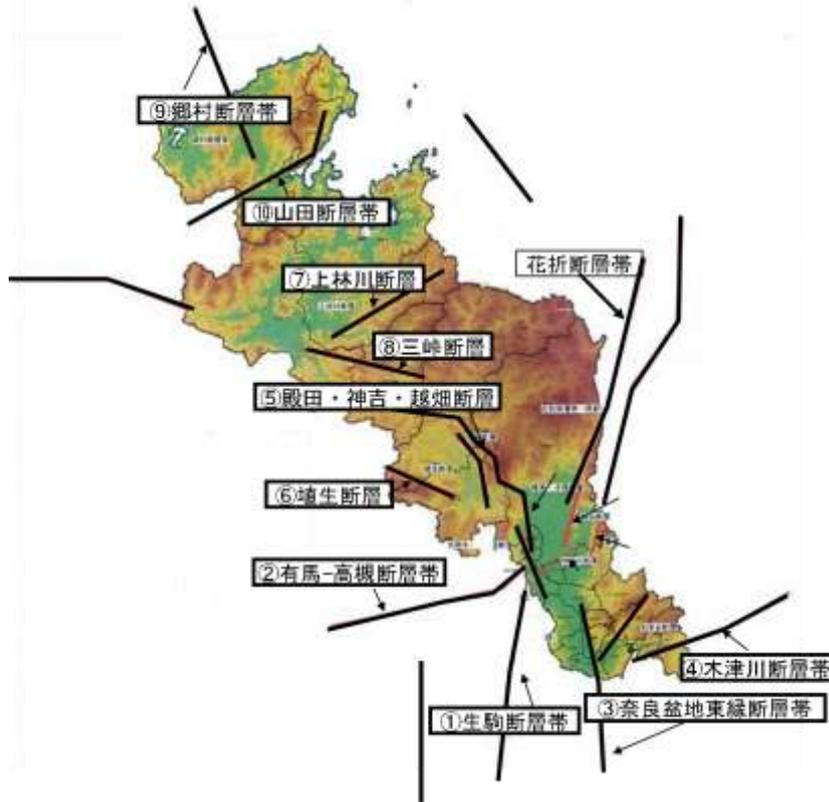
#### ■ ライフラインの復旧見込み

- ・ 上下水道は概ね1箇月で復旧
- ・ 上水道については、液状化被害等が大きい市町村(※)においては、発災直後の断水率が90%程度と高く、復旧までに1.5箇月から2箇月程度を要する  
(※) 木津川市、井手町、笠置町、京田辺市、城陽市、久御山町、大山崎町、亀岡市、南丹市、福知山市、綾部市、宮津市、京丹後市、与謝野町
- ・ 電気・通信については、概ね1週間で復旧

### 3 各市町村の最大被害断層

今回の見直しの結果、舞鶴市、宮津市、与謝野町については、最大被害となる活断層が、それぞれ郷村断層帯に変更

#### 【各断層位置図】



#### 【各断層の最大被害市町村の状況】 ※全壊棟数ベース

断層名	最大 予測震度	人的被害		建物被害		最大被害市町村
		死者数 (人)	負傷者数 (人)	全壊 (棟)	焼失建物 (棟)	
①生駒断層帯	7	990 (3,380)	10,030 (30,350)	28,660 (65,230)	3,610 (4,960)	(R6): 宇治市、城陽市、京田辺市、久御山町、精華町 (H20): 宇治市、城陽市、京田辺市、久御山町、精華町
②有馬-高槻断層帯	7	1,320 (2,890)	16,000 (43,910)	39,730 (60,480)	5,220 (6,440)	(R6): 向日市、長岡京市、八幡市、大山崎町 (H20): 向日市、長岡京市、八幡市、大山崎町
③奈良盆地東縁断層帯	7	520 (1,890)	6,260 (19,700)	19,820 (46,010)	1,890 (4,620)	(R6): 木津川市、井手町、宇治田原町、和束町 (H20): 木津川市、井手町、宇治田原町、和束町
④木津川断層帯	7	420 (1,560)	5,710 (18,430)	16,250 (40,660)	1,390 (3,940)	(R6): 笠置町、南山城村 (H20): 笠置町、南山城村
⑤殿田-神吉-越畑断層帯	7	1,050 (3,410)	18,410 (34,930)	32,310 (77,560)	5,060 (5,610)	(R6): 南丹市 (H20): 南丹市
⑥埴生断層帯	7	330 (1,510)	5,800 (19,970)	13,810 (38,050)	650 (2,260)	(R6): 亀岡市 (H20): 亀岡市
⑦上林川断層帯	7	430 (1,160)	2,990 (8,290)	23,120 (39,490)	540 (4,960)	(R6): 綾部市 (H20): 舞鶴市、綾部市
⑧三峠断層帯	7	430 (1,150)	2,700 (7,920)	22,010 (38,340)	730 (4,890)	(R6): 福知山市、京丹波町 (H20): 福知山市、京丹波町
⑨郷村断層帯	7	1,010 (2,180)	4,870 (12,670)	62,860 (76,610)	2,010 (10,550)	(R6): 舞鶴市、京丹後市、宮津市、与謝野町 (H20): 京丹後市
⑩山田断層帯	7	540 (1,650)	3,000 (9,030)	36,930 (54,980)	1,120 (8,550)	(R6): 伊根町 (H20): 宮津市、与謝野町、伊根町
花折断層帯 (参考)	7	4,660 (6,950)	60,830 (177,510)	110,710 (189,070)	23,500 (13,100)	(R5): 京都市 (H20): 京都市